

## お詫びと訂正

# 「SAS ボード形式の追加／SAS ボード接続機器拡大 ／内蔵 LTO と内蔵 RDX 用電源ケーブルの接続変更 のお知らせ」

このたびは、日立アドバンスサーバ HA8000 TS20 N2[2016年6月～モデル]、TS20 N[2015年4月～モデル](以下 システム装置)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。  
『ユーザーズガイド』に訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。

## ➤ 「12G SAS ボード (CE7311) および内部 SAS ケーブル (LR7214)」のサポートについて

内蔵 LTO(UU742A/UU781A/UU715A/UU7250/UU7600)接続用の 6G SAS ボード(CE7213)が販売終了し、2017年4月末から後継品として 12G SAS ボード(CE7311)をサポート開始しました。12G SAS ボード(CE7311)と組み合わせて使う内部 SAS ケーブル(LR7214)もサポートします。

## 対象モデル

RS220 N2、RS210 N2[2016年4月～モデル] RS220 N1、RS210 N1 [2015年4月～モデル]  
TS20 N2 [2016年6月～モデル] TS20 N [2015年4月～モデル]

## 仕様

- 12G SAS ボード (CE7311)  
PCI Express 3.0、SAS **12Gbps**、4 ポート、8 レーン (×8)
- 内部 SAS ケーブル (LR7214)  
長さ 1.0m、コネクタ形状：LTO 側 SAS---SAS ボード側 MiniSAS
  - ・ LR7214 はバックアップキット (SLR7214\*\*\*\*:\*\*\* は任意の英数字) に含まれています。
  - ・ 従来品の LR7210/LR7213 は、CE7311 のコネクタ形状に一致しないため接続できません。

## 読み替え

“**CE7311**” の拡張スロット (PCI) の搭載ルールは “CE7213” と同一です。『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「拡張ボードの搭載ルール」にある “CE7213” を “**CE7311**” に読み替えてください。

## サポート OS 制限

- 2017年4月時点、Windows Server 2016 環境はサポートしていません。最新情報は、次の Web サイトに掲載しています。情報は適時更新されておりますので、定期的にご確認ください。  
[http://www.hitachi.co.jp/products/it/windows\\_os/support/ws2016/index.html](http://www.hitachi.co.jp/products/it/windows_os/support/ws2016/index.html)
- VMware 環境は LTO のようなテープデバイスをサポートしていません。

## SAS ボードマニュアルの参照

『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』の 12G SAS ボード (CE7311) の記載は、拡張スロット搭載ルールについてのみ記載されています。

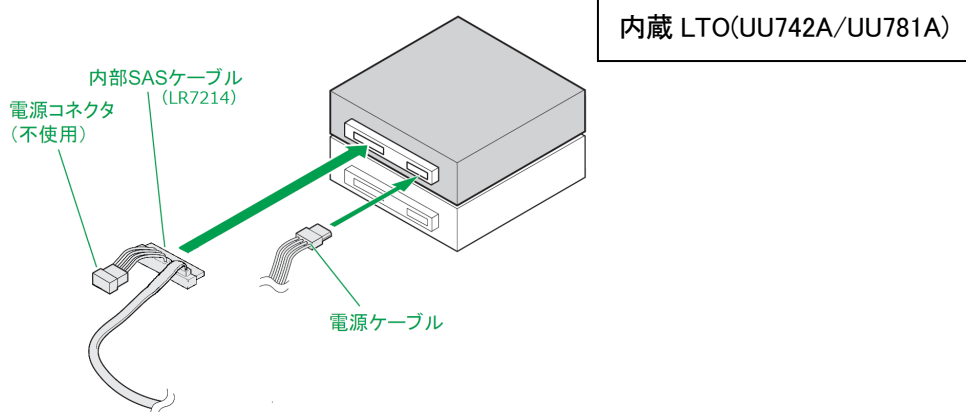
ドライバインストールの設定については、『12Gb/s SAS ボード取扱説明書(形名：CE7301 / CE7302 / CE7311)』をご参照ください。

## TS20 N2 / TS20 N への取り付け方法

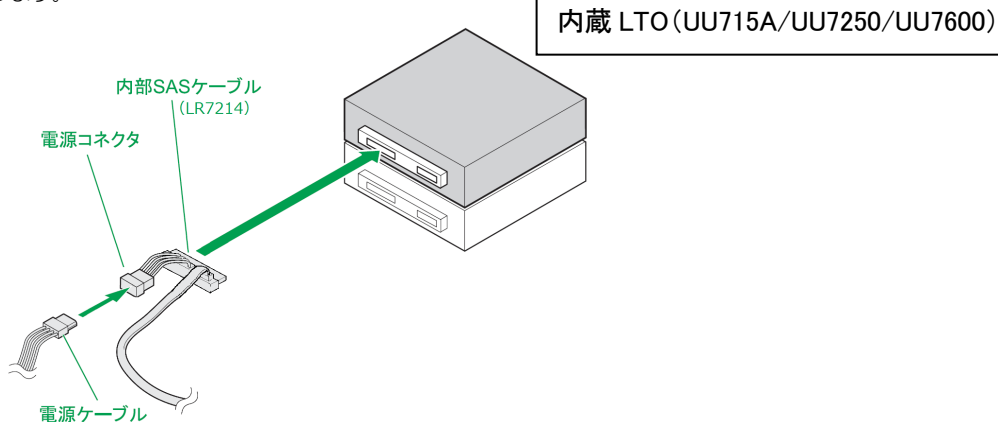
- 12G SAS ボード (CE7311) の取り付け方法は他の拡張ボードと同一です。  
→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「拡張ボードの取り付け」をご参照ください。
- 内部 SAS ケーブル (LR7214) の接続方法は次のとおりです。

内蔵 LTO(UU742A/UU781A) は、拡張スロット (PCI) に取り付けられた SAS ボード (CE7311) と内部 SAS ケーブル (LR7214) で接続します。

内部 SAS ケーブルに付いている電源コネクタに電源ケーブルを接続しても、内蔵 LTO (UU742A/UU781A) へは給電されないため、内蔵 LTO (UU742A/UU781A) の電源コネクタに直接電源ケーブルを接続してください。

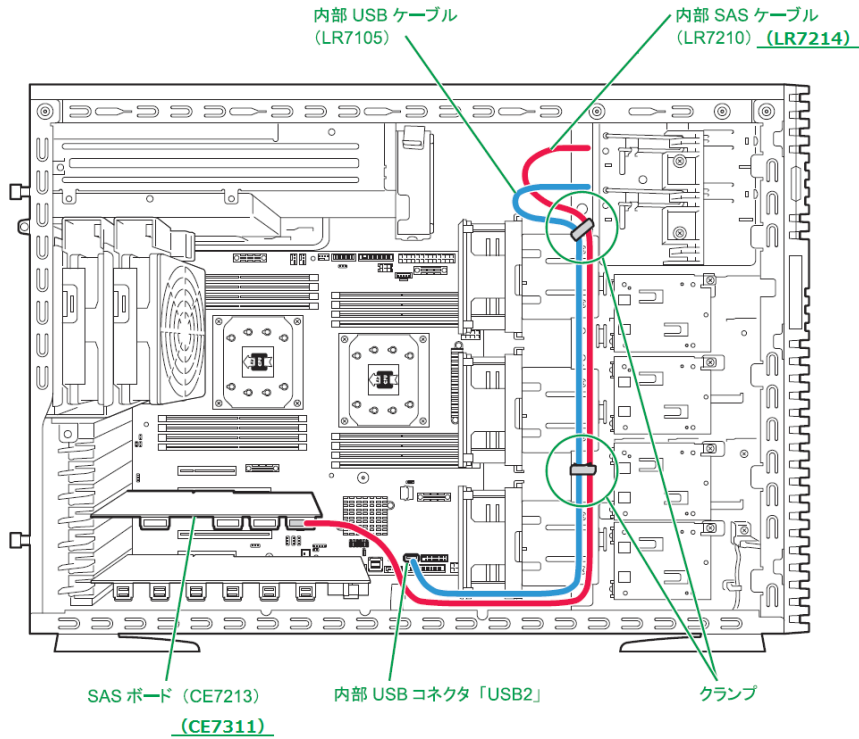


内蔵 LTO (UU715A/UU7250/UU7600) は、拡張スロット (PCI) に取り付けられた SAS ボード (CE7311) と内部 SAS ケーブル (LR7214) で接続します。電源ケーブルは、内部 SAS ケーブルに付いている電源コネクタに接続します。



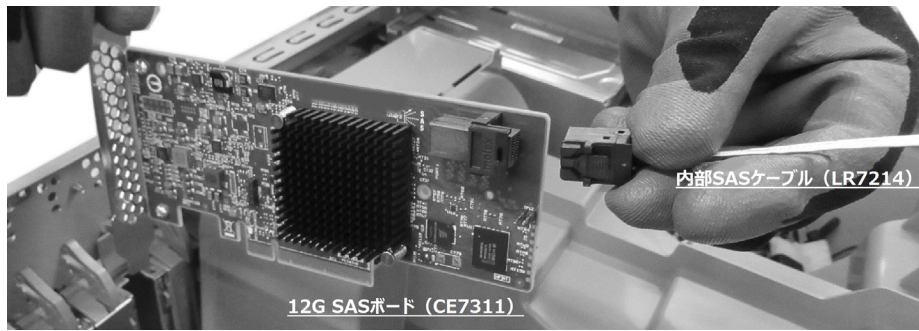
- TS20 AN2 / TS20 AN の場合、内蔵 LTO/内蔵 RDX の電源接続に使用する電源ケーブルも変更しました。  
P.5 の「TS20 AN2 / TS20 AN 内蔵 LTO/内蔵 RDX 用電源ケーブルの接続変更について」も参照してください。

内部 SAS ケーブル (LR7214) のルーティングは (LR7210) と同様です。  
固定用のクランプは、システム装置側面にある 2 個を使用します。



制限

12G SAS ボード (CE7311) に内部 SAS ケーブル (LR7214) を取り付けしにくい場合は、一旦、12G SAS ボードを拡張スロット (PCI) から取り外してから内部 SAS ケーブルを取り付けてください。再度、拡張スロット (PCI) に 12G SAS ボードを取り付けてください。12G SAS ボード (CE7311) を取り外しせず、無理に SAS ケーブルを取り付けると PCI ボード・SAS ケーブルが損傷するおそれがあります。



## ▶ 「12G SAS ボード (CE7301/CE7302) 」の外付けテープデバイス接続サポートについて

LTO オートローダ装置/テープエンクロージャ/LTO ライブラリ装置接続用の 6G SAS ボード (CE7207/CE7208) が販売終了しました。2017 年 4 月末から後継品として、現行品のエントリーディスクアレイ装置 BR1250 接続用 12G SAS ボード (CE7301/CE7302) の接続範囲を広げ、LTO オートローダ装置/テープエンクロージャ/LTO ライブラリ装置の接続をサポート開始しました。

---

## 対象モデル

RS440 N1 [2016 年 12 月～モデル] RS440 N [2015 年 9 月～モデル]  
RS220 N2、RS210 N2[2016 年 4 月～モデル] RS220 N1、RS210 N1 [2015 年 4 月～モデル]  
TS20 N2 [2016 年 6 月～モデル] TS20 N [2015 年 4 月～モデル]  
RS110 N、TS10 N [2014 年 6 月～モデル]

---

## 接続サポート装置

- エントリーディスクアレイ装置 BR1250
- **LTO オートローダ装置、テープエンクロージャ、LTO ライブラリ装置**
  - ・接続サポートしている外付けテープデバイスは、対象モデルごとに異なるため、詳細は構成ガイドをご参照ください。

---

## サポート OS 制限

- 2017 年 4 月時点、BR1250 と外付けテープデバイスは Windows Server 2016 環境をサポートしていません。最新情報は、次の Web サイトに掲載しています。情報は適時更新されておりますので、定期的にご確認ください。[http://www.hitachi.co.jp/products/it/windows\\_os/support/ws2016/index.html](http://www.hitachi.co.jp/products/it/windows_os/support/ws2016/index.html)
- VMware 環境は LTO のようなテープデバイスをサポートしていません。

---

## 外付けテープデバイスの接続方法

外付けテープデバイスの接続方法については、各外付けテープデバイスマニュアルをご参照ください。

## ➤ 「TS20 AN2 / TS20 AN 内蔵 LTO と内蔵 RDX 用電源ケーブルの接続変更について」

TS20 AN2 / TS20 AN に内蔵 LTO と内蔵 RDX を搭載する場合の電源ケーブルが変更になりました。

### 対象モデル

TS20 AN2 [2016 年 6 月～モデル]

TS20 AN [2015 年 4 月～モデル]

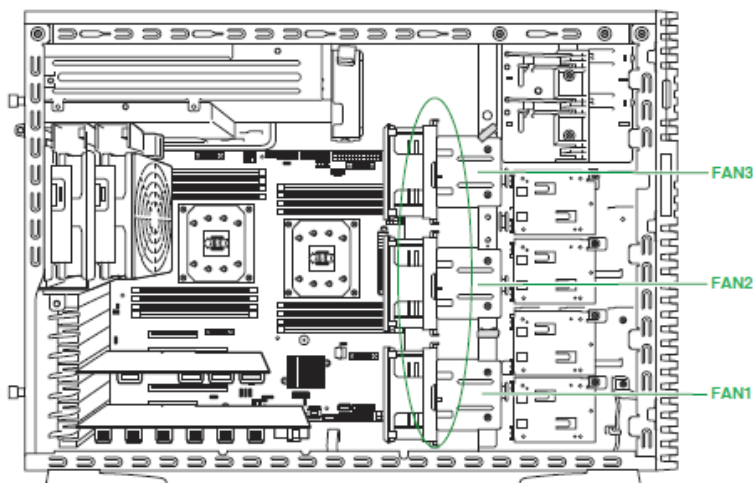
### 制限

- TS20 AN2 の場合、内蔵 LTO (Ultrium4 : UU781A) と内蔵 RDX (UR5320) は同じシステム装置に混在搭載できません。
- TS20 AN の場合、内蔵 LTO (Ultrium3 : UU742A) または内蔵 LTO (Ultrium4 : UU781A) と内蔵 RDX (UR5320) は同じシステム装置に混在搭載できません。

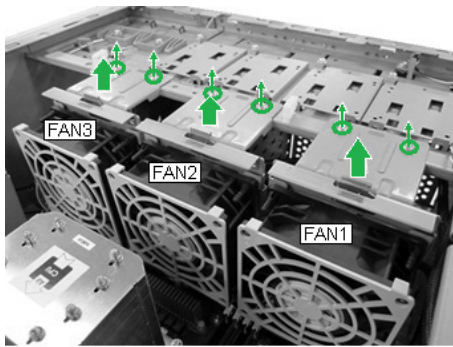
### 内蔵 LTO/内蔵 RDX 用電源ケーブルの接続方法

1. ユーザーズガイド ～オプション編～「4 内蔵デバイスの取り付け」「4.3 内蔵デバイスの取り付け」「4.3.2 リムーバブルデバイスを取り付ける」にある「手順 8 リムーバブルデバイスを拡張ストレージベイ (5 型) に差し込みます。」を実施したあとに、システムファンを取り外し、電源ケーブルを取り出します。

システムファン 1 ～ 3 (FAN1 ～ FAN3) の下に隠れているリムーバブルデバイスに接続する電源ケーブルを取り出すため、システムファンを取り外します。

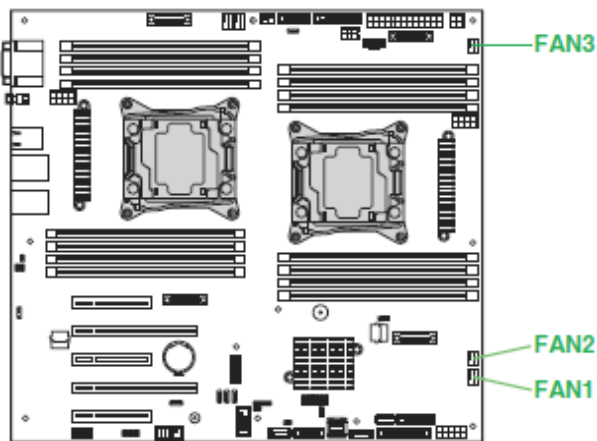


2. 各システムファンの取付ネジ2本を外し、ブラケットごと取り外します。



システムファンを取り外す際は、システムファンの電源ケーブル長以上にシステムファンを動かさないでください。コネクタに過度な負荷がかかります。

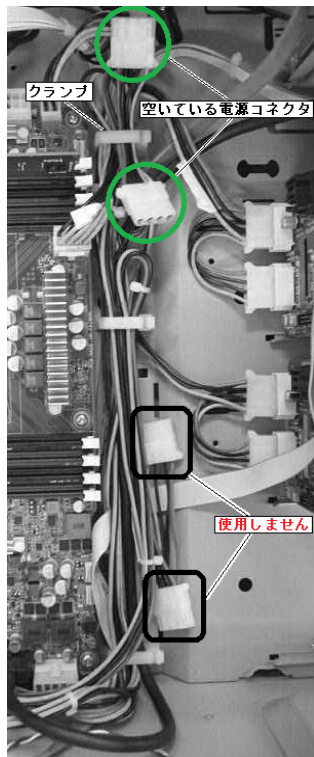
3. システムファンの電源ケーブルをクランプから外してから、コネクタを抜きます。



### 通知

コネクタを抜く場合、ほかのケーブルを引っかけて断線させたりしないようにご注意ください。

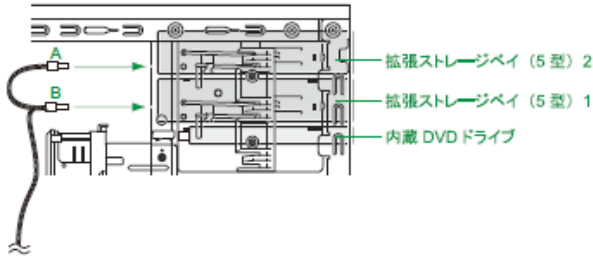
4. リムーバブルデバイスに接続する電源ケーブルを取り出します。  
空いている電源コネクタをクランプから外します。



…  
補足

- 空いている電源コネクタの数は次のとおりです。既にリムーバブルデバイスが搭載されている場合、空いている数は少なくなります。  
ハードディスクキットが（標準）の場合：2 個  
ハードディスクキットが（2 台目増設）の場合：4 個  
ハードディスクキットが（3 台目増設）の場合：2 個
- 写真は、ハードディスクキットが（2 台目増設）の場合です。ハードディスクキットが（標準）の場合／ハードディスクキットが（3 台目増設）の場合も同様に、空いている電源コネクタがクランプされています。
- 空いている電源コネクタにはカバーが付いています。

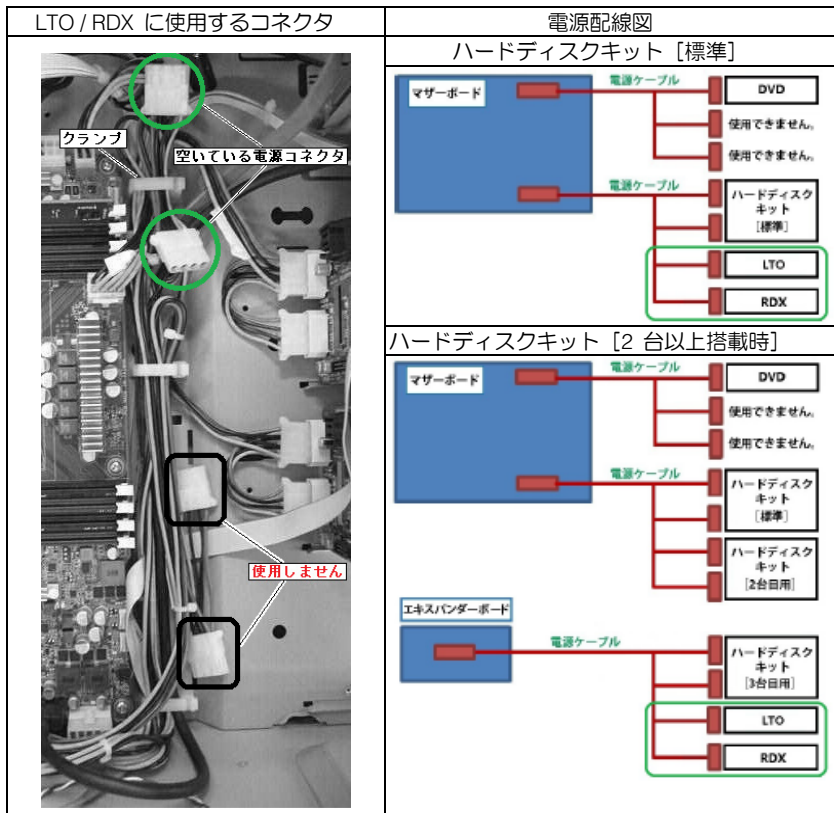
5. ユーザーズガイド ～オプション編～「手順 9 リムーバブルデバイスにインタフェースケーブルと電源ケーブルを接続します。」では、次のように内蔵 LTO/内蔵 RDX の電源ケーブルを接続します。



電源コネクタ 2 つは、イラストのように A と B を区別して配線してください。A と B を逆にして配線すると、拡張ストレージベイ (5 型) 2 に電源コネクタが届かなくなります。なお、実際の電源コネクタには、名称は表示されていないため、ケーブルの分岐で見分けてください。

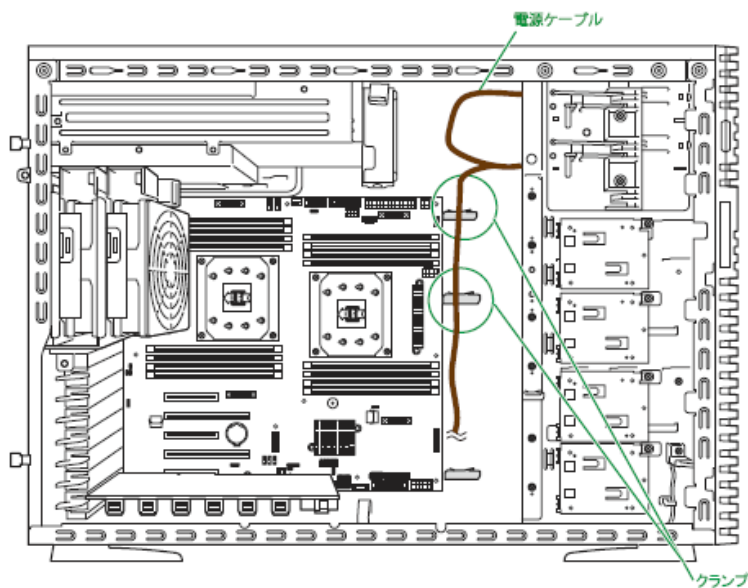


- 空いている電源コネクタの数は次のとおりです。既にリムーバブルデバイスが搭載されている場合、空いている数は少なくなります。  
 ハードディスクキットが (標準) の場合：2 個  
 ハードディスクキットが (2 台目増設) の場合：4 個  
 ハードディスクキットが (3 台目増設) の場合：2 個
- 写真は、ハードディスクキットが (2 台目増設) の場合です。ハードディスクキットが (標準) の場合/ハードディスクキットが (3 台目増設) の場合も同様に、空いている電源コネクタがクランプされています。
- 空いている電源コネクタにはカバーが付いています。





6. 電源ケーブルをクランプで固定します。

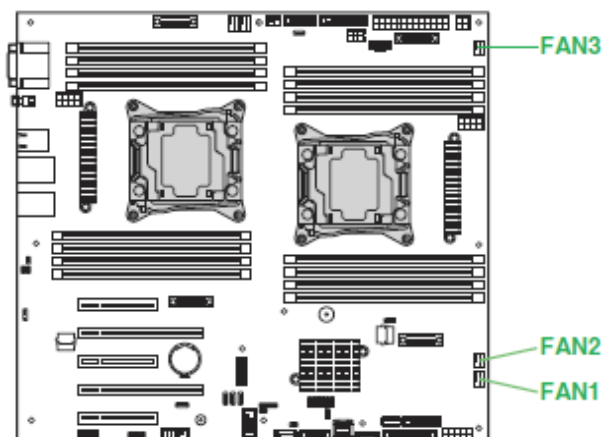


7. ユーザーズガイド ～オプション編～「手順 10 リムーバブルデバイスのネジ穴とシステム装置のフレーム穴を合わせ、レバーの先端をリムーバブルデバイスのネジ穴に差し込みます。」と「手順 11 レバーを押しながら ①、下へスライドさせてロックします ②。」を実施したあとに、システムファンを取り付けます。

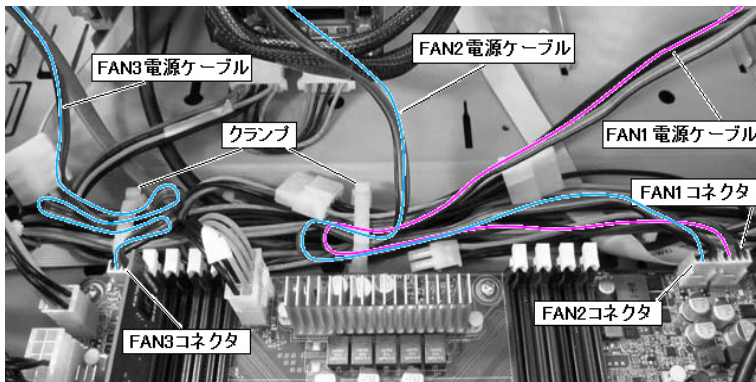
### 通知

システムファンの電源ケーブルは、マザーボードの FAN コネクタに対し、まっすぐに接続してください。斜め方向から接続するとコネクタを破損するおそれがあります。

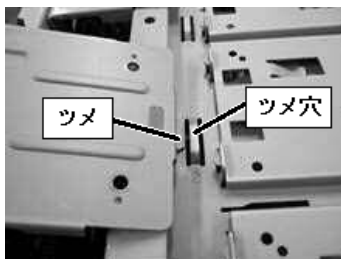
システムファン 1 ～ 3 (FAN1 ～ FAN3) の電源ケーブルを取り付けます。



8. システムファンの電源ケーブルは、余長処理をしてからクランプで固定してください。



9. システムファンのツメを、システム装置のツメ穴に引っかけます。



10. 各システムファンの取付ネジ 2 本を締めます。